

4 E-SALON

11月17日2012年

広島経済大学 教授

川村 健一

題目 “ 地域の課題解決に向けた低速 E コミバスの可能性 ”

社会と EV の新しい関係性の模索

(はじめに)

“技術開発のパラダイムが変わる” — 適正技術を考える。 —

* 便、快、美、文化 (何を指すのか) *

あたらしいステークホルダーの誕生と新日本文化創生

人々を結ぶ EV を考える。

1. 市民起業家 (ソーシャルアントレプレナー) の誕生と協働の模索

“ちょっと視点を変えれば EV で持続可能で豊かなまちづくり”

新しいコミュニティー (Relational Community)

(関係性をつくる、ひろげる、伝える)

グローバルな考え、ユニバーサルな技術での解決 (アメリカ型技術連合) の限界か

(自分で育てること、慈しむこと、責任をもつこと)

技術者の役割と住民の役割=複眼的視点 (会社人と社会人、シビルとは)

“社会環境は、完成品を渡すのではなく作り上げるプロセスが、人の協力を創り、営々と手を入れる自分たち、そして次の世代に伝える自分達の社会環境を創出する。”

2. 世界のまちかどから

EV が走るアメリカと都市再生

“自分たちの共通の”場 (トポス) = コモンズ (風土) の創造”

“市民の新しい共有資産 (コモンズ) 創造の動き” と EV

デンバー コロラド

ホスピタリティーの良いまち、古いまちの都会人を守る人の喜び

“心を創る、与えられた、守るべき古いまちでの知恵を生む、誇り (civil heart)

を持つ市民 (ソーシャルアントレプレナー) の誕生”

ひょっとしたらこの新たな関係が地球市民を作り外交と異なる平和を実現する

コペンハーゲン

食を考える。子供部屋を考える。多様な生活を考える。

“豊かな生活とは、それぞれが所有するから皆で共有するへ サービスの循環
＝経済循環 新しい関係性を考える” EV, スマートグリッド、風力発電
地域通貨は、キャッシュでなくサービスの価値である。

モンクスゴア

アイルランド・マルタ等、島嶼部に見る EV

自分の町の環境を守る。観光地の住民の心意気。

地域にあった EV の導入

『わたしのもの、みなのもの、まちのもの』

(コモンズ (社会共有資本) としての EV を考える。)

新しい地域交通としての EV と市民、コミュニティの関係性の構築

















